



Virtual Storage Console for VMware vSphereストレージシステム環境を設定します VSC, VASA Provider, and SRA 9.7

NetApp
April 01, 2025

目次

Virtual Storage Console for VMware vSphereストレージシステム環境を設定します	1
ストレージシステムのデフォルトクレデンシャルを設定	2
ストレージシステムを VSC に追加	2
ストレージシステムとホストを検出	3
ストレージシステムの表示を更新します	4

Virtual Storage Console for VMware vSphere ストレージシステム環境を設定します

Virtual Storage Console for VMware vSphere を使用すると、ストレージシステムの検出とストレージクレデンシャルの設定を単一のメカニズムで実行できます。クレデンシャルに基づいて、Virtual Storage Console (VSC) ユーザがストレージシステムを使用してタスクを実行するために必要な ONTAP アクセス許可が付与されます。

VSC でストレージリソースを表示して管理するには、まずストレージシステムを検出しなければなりません。検出プロセスでは、ストレージシステムの ONTAP クレデンシャルが必要になります。これはユーザ名とパスワードのペアに関連付けられた権限 (ロール) で、ストレージシステムごとに割り当てられます。これらのユーザ名とパスワードのペアは、ONTAP RBAC を使用するため、ONTAP で設定する必要があります。これらのクレデンシャルを VSC で変更することはできません。を使用して、ONTAP RBAC ロールを定義できます。



管理者としてログインすると、そのストレージシステムに対するすべての権限が自動的に付与されます。

VSC にストレージシステムを追加するときは、ストレージシステムの IP アドレス、およびそのシステムに関連付けられているユーザ名とパスワードのペアを入力する必要があります。VSC がストレージシステムの検出プロセスで使用するデフォルトクレデンシャルを設定することも、ストレージシステムが検出されたときにクレデンシャルを手動で入力することもできます。VSC に追加されるストレージシステムの詳細は、導入環境で有効にする拡張機能に自動的にプッシュされます。VASA Provider と Storage Replication Adapter (SRA) にストレージを手動で追加する必要はありません。VSC と SRA は、クラスタレベルおよびレベルでクレデンシャルの追加をサポートします。VASA Provider は、ストレージシステムを追加するためのクラスタレベルのクレデンシャルのみをサポートします。

環境に複数の vCenter Server インスタンスが含まれている場合、ストレージシステムページから VSC にストレージシステムを追加するときに、ストレージシステムを追加する vCenter Server ボックスが表示されます。このボックスで、ストレージシステムを追加する vCenter Server インスタンスを指定できます。データセンター名を右クリックしてストレージシステムを追加する場合は、そのデータセンターにサーバがすでに関連付けられているため、vCenter Server インスタンスを指定するオプションは表示されません。

検出は、次のいずれかの方法で実行されます。いずれの場合も、新たに検出されるすべてのストレージシステムのクレデンシャルを指定する必要があります。

- VSC サービスが開始されると、VSC の自動バックグラウンド検出プロセスが開始されます。
- ストレージシステムページまたはホスト/データセンターですべて再検出*ボタンをクリックすると、*アクション*メニュー (メニュー: アクション[NetApp VSC > ホストおよびストレージデータの更新]) からこのボタンを選択できます。概要セクションの [はじめに] タブで *発見* をクリックすることもできます。

VSC の機能を使用してタスクを実行するときは、いずれも特定の権限が必要です。ユーザが実行できる操作は、ONTAP ロールに関連付けられたクレデンシャルに基づいて制限できます。ストレージシステムのユーザ名とパスワードのペアを同じにすれば、複数のユーザで同じストレージシステムのクレデンシャルを共有し、同じ処理を実行することができます。

ストレージシステムのデフォルトクレデンシャルを設定

Virtual Storage Console for VMware vSphereを使用して、vCenter Serverでストレージシステムのデフォルトクレデンシャルを設定できます。

作業を開始する前に

デフォルトクレデンシャルの作成に使用する vCenter Server を選択しておく必要があります。

このタスクについて

ストレージシステムのデフォルトクレデンシャルを設定すると、(VSC) ではそれらのクレデンシャルを使用して、VSCが検出したストレージシステムにログインします。デフォルトクレデンシャルでログインできない場合は、ストレージシステムに手動でログインする必要があります。VSCとSRAは、クラスタレベルまたはレベルでストレージシステムのクレデンシャルの追加をサポートします。ただし、VASA Provider はクラスタレベルのクレデンシャルとのみ連携します。

手順

1. VSC * Home * ページで、メニュー：設定[管理設定>ストレージシステムのデフォルトクレデンシャルの設定]をクリックします。
2. ストレージ・システムのデフォルト・クレデンシャル*ダイアログ・ボックスで、ストレージ・システムのユーザ名とパスワードを入力します。

ストレージコントローラのクレデンシャルは、ユーザ名とパスワードのペアに基づいて ONTAP で割り当てられます。ストレージコントローラのクレデンシャルは、管理者アカウントまたはロールベースアクセス制御 (RBAC) を使用するカスタムアカウントのどちらかです。

ストレージコントローラのユーザ名とパスワードのペアに関連付けられているロールを VSC で変更することはできません。VSC、VASA Provider、SRA仮想アプライアンスで使用する新しいONTAP ユーザロールを変更または作成するには、System Managerを使用します。

『Virtual Storage Console、VASA Provider、and Storage Replication Adapter for VMware®vSphere Deployment and Setup Guide for 9.7 Release』の「Configuring user roles and privileges」の項を参照してください。

3. OK * をクリックして、デフォルトクレデンシャルを保存します。

完了後

ストレージ・システムのステータスが「認証エラー」と報告されたためにストレージ・システムのクレデンシャルを更新した場合は、[ストレージ・システム] ページで [すべて再検出] オプションをクリックする必要があります。これにより、新しいクレデンシャルを使用してストレージシステムへの接続が試行されます。

ストレージシステムを VSC に追加

Virtual Storage Console (VSC) には手動でストレージシステムを追加できます。

このタスクについて

(VSC) を起動するたび、または* rediscover all * オプションを選択するたびに、使用可能なストレージシステムが自動的に検出されます。

手順

1. VSCのホームページを使用して、VSCにストレージシステムを追加します。
 - [メニュー]、[ストレージシステム]、[追加]の順にクリックします。
 - [メニュー]、[はじめに]の順にクリックし、[ストレージシステムの追加]の下の[*追加]ボタンをクリックします。
2. Add Storage System *（ストレージ・システムの追加）ダイアログ・ボックスで'そのストレージ・システムの管理 IP アドレスとクレデンシャルを入力します

クラスタまたはIPv6アドレスを使用してストレージシステムを追加することもできます。このダイアログボックスでは、TLS のデフォルト値とポート番号を変更することもできます。

VSC * Storage System *ページからストレージを追加する場合は、ストレージを配置するvCenter Server インスタンスも指定する必要があります。Add Storage System *（ストレージシステムの追加）ダイアログボックスには、使用可能なvCenter Serverインスタンスのドロップダウンリストが表示されます。vCenter Server インスタンスにすでに関連付けられているデータセンターにストレージを追加する場合、このオプションは表示されません。

3. 必要な情報をすべて追加したら、「* OK」をクリックします。

ストレージシステムとホストを検出

vSphere Clientで（VSC）を初めて実行すると、ESXiホスト、そのLUNとNFSエクスポート、およびLUNとエクスポートを所有するネットアップストレージシステムがVSCによって検出されます。

作業を開始する前に

- すべての ESXi ホストの電源をオンにして接続しておく必要があります。
- 検出するすべてののが実行されている必要があります。また、使用中のストレージプロトコル（NFS、iSCSI、またはFC）用のデータLIFが各クラスタノードに少なくとも1つ設定されている必要があります。

このタスクについて

新しいストレージシステムの検出や既存のストレージシステムの情報の更新はいつでも実行でき、容量や設定に関する最新の情報を確認することができます。VSC でストレージシステムへのログインに使用されるクレデンシャルを変更することもできます。

ストレージシステムの検出時に、vCenter Server インスタンスで管理している ESXi ホストから情報が収集されます。

手順

1. vSphere Client * Home ページで、Hosts and Clusters *を選択します。
2. 必要なデータセンターを右クリックし、メニューを選択します。NetApp VSC [ホストおよびストレージデータの更新]。

この処理に時間がかかることを通知する確認ダイアログボックスが表示されます。

3. [OK] をクリックします。
4. ステータスが「認証エラー」の検出されたストレージコントローラを選択し、メニューからアクション[Modify]をクリックします。

5. [ストレージ・システムの変更]ダイアログ・ボックスに必要な情報を入力します
6. ステータスが「認証エラー」のすべてのストレージコントローラについて、手順4と5を繰り返します。

完了後

検出プロセスが完了したら、次の手順を実行します。

- VSCを使用して、* Adapter Settings 列、 MPIO Settings 列、または NFS Settings *列にAlertアイコンが表示されるホスト用のESXiホスト設定を構成します。
- ストレージシステムのクレデンシャルを入力します。

ストレージシステムの表示を更新します

Virtual Storage Console for VMware vSphereの更新機能を使用して、ストレージシステムに関する情報を更新し、Virtual Storage Console (VSC) でストレージシステムを検出することができます。

このタスクについて

認証エラーの発生後にストレージ・システムのデフォルト・クレデンシャルを変更した場合は、「`re Fresh」オプションを使用すると便利です。ストレージ・システムが「Authentication Failure Status」を報告したあとでストレージ・システムのクレデンシャルを変更した場合は、必ず更新処理を実行してください。更新処理を実行すると、新しいクレデンシャルを使用してストレージシステムへの接続が試行されます。

システムの設定によっては、この処理が完了するまでに時間がかかることがあります。

手順

1. VMware vSphere Client * Home ページで、 Storage Systems *をクリックします。
2. 更新を開始します。

場所	をクリックします
Virtual Storage Console の略	[すべて再検出 (Rediscover All)] アイコン
データセンター	データセンターを右クリックし、メニューをクリックします。NetApp VSC [ホストおよびストレージデータの更新]。

3. [ホストおよびストレージデータの更新*]ダイアログボックスで、[OK]をクリックします。

データセンター内のホストとストレージシステムの数によっては、検出に数分かかることがあります。この検出処理はバックグラウンドで実行されます。

4. [成功 (* Success)]ダイアログボックスで、OK *をクリックする。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。